

***ヒト育ての種を蒔く会社**
***お客様の幸せが、自分の幸せになる**
***自分が成長すれば、地域も成長する**

●創業 1965年(昭和40年) 〒963-8023
 ●所長 三部 吉久 福島県郡山市緑町16-1
 ●資本金 1,000万円 TEL / 024-922-1300
 ●従業員数 82名(グループ全体) FAX / 024-922-6363
 http://www.sarbe.co.jp

さんべ
三部会計グループ (税理士法人 三部会計事務所 / (株)グッド
 ビジネスパートナーズ / (株)総務サポート /
 社会保険労務士法人 みどり人事サポート)



経営支援、人材育成支援、相続・資産承継支援など

採用情報(2019年3月以降)、
 各種申し込み・
 問い合わせはこちら

CORPORATE

●経営支援

税務会計、事業承継、財務、企業再生、IT導入など、豊富な経験と専門性を備えたスタッフが会社経営に関する多彩なニーズに対応する。

●人材育成支援

企業の成長を支援する制度の提案をはじめ、人材開発、労務、企業の組織づくりなど、人材育成を支援する。

●相続・資産承継支援

相続税申告、遺産分割対策、不動産の購入・売却・有効活用、ファイナンシャルプランニングなど専門のスタッフがサポートする。

●その他

企業再編M&A、医療福祉経営支援、公会計支援、農業経営支援など、地域のニーズに合わせた様々な経営支援を行う。

ほか

- 1 三部会計グループの社員が勢ぞろい。はつらつとした笑顔が信頼の証
- 2 「社長のおしごと体験コーナー」のひとつコマ(2018年ビッグバレットふくしま)。子どもたちは会社の設立の流れなどを楽しく学んだ
- 3 法人事業部の小倉山竜哉さん(写真左)。毎月訪問し、クライアントの業務をサポート
- 4 社員全員に配られる経営理念手帳。左の2冊は経営理念をビジュアル化したコンセプトブック
- 5 事務所2階でのミーティングの様子。自由な意見が飛び交う
- 6 「お客様が成長することで、私たちの土台がで上がりました」と三部吉久所長

06



MESSAGE

✳ 会計事務所というところ、少人数・パソコン・地味というイメージを持つ方も多いかと思いますが、それだけで学生の皆さんが就職の選択肢から外してしまうのはもったいないかもしれません。当社は中小企業の知恵袋として、半世紀以上にわたってお客様のグッドビジネスを支えてきました。会計事務所の仕事はお客様の困りごとや悩みごとについてひとつひとつ丁寧に伝えていくことが使命です。ですから、従来の税務会計業に加えて、さまざまな課題解決に対応できる事業を着実に増やしてきました。「三部会計に相談すれば何とかしてくれる」と、お客様から頂戴した評価が他の企業などにも伝わって、新しいお客様を連れてきてくださる。私たちの仕事の根幹はすべて「ヒト」です。

地域に密着した「中小企業の知恵袋」働きながら自らも成長できる会社です

当社は地域密着型のワンストップ・オフィスとして企業経営に関するあらゆるご相談に対応するとともに、地域の起業家を支援するためのワーキングスペースの運営や、子どもたちに将来の夢の一つに「社長」という選択肢があることを知ってもらうためのワークショップなども行っています。社内ではモチベーション向上の一環として、職場風土向上委員会、健康経営委員会などを立ち上げ、社員のご家族を招いてのファミリー感謝デーの開催や企業ヨガなど多彩な活動も行っています。私たちの会社は「ヒト育ての種を蒔く会社」。子どもからお年寄りまで誰もが楽しみ、そして学び合いながら共に育つプラットフォームになるような場をもっと創っていきたくと考えています。





国際税務の整備を進めるゲンさん(写真左)と遠藤剛さん(写真右)。クライアントのニーズを探って一つひとつ形にしていく。

二

部会計事務所では新卒の学生だけではなく、様々な業態からの転職者も多い。「事業承継プランナー」の加藤克博さんは、以前は個人の会計事務所に勤めていた。三部会計事務所の、トップダウンではなく自分の企画をビジネスに乗せられる点に魅力を感じて、転職を決めたという。「自分が立案したものをクライアントに提供し、お客様の喜んでる笑顔を見るのができるのがいいですね。ここは経営コンサルタントやM&A、ニアエキスパートなど、会計業務に関わるエキスパートがたくさんいますので、1回の相談で多角的な視点からお客様の問題を解決することができるとは、と目を輝かす。

「経営支援」の山子顕さんは、県庁職員から転職した。公務員時代には学校教育や土木、河川管理など様々な部局で県の事業に携わってきたが、「だんだんと、お客様の顔が見えるような仕事をしてみたい」と考えるようになって」と転職を考えた理由を語る。「この会社はベンチャー気質もあるし、他業界出身者でも活躍できると思っただけです。今は『経営支援部』の一員として、様々な企業の経営の立て直しのサポートを行っています。時にはその企業の会議に出席し、会議そのものの問題点や直面する課題と一緒に検討するのだ。『経営は単純にデータを追いかけるだけでは駄目。経営者の考えや社内の人間関係を把握したりなど複雑な一面もあります。』



上/事業承継プランナーの加藤克博さん(写真中央)。チーム力が三部会計の一番の武器。下/「経営者の方と膝詰めで何時間も話をすることもあります」。経営支援部の山子顕さん(写真中央)

経営理念「全体最適」でみんなの幸せを探っていく

「近江商人の理念に、三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)という言葉があります。それに、社員よしと、未来よしを加えて、五方よしをめざすのが私たちの考えです」と三部所長。「企業が社会の原動力。それを支えるのが会計事務所の役目です。良い会社がたくさん存在すれば、働く人も幸せになって、経済が動き出して、社会が幸せになりますから。それを経営理念としてまとめたのが『全体最適』という言葉だ。毎朝、全員が参加して全体朝礼を行っている。社員が持ち回りでスピーチを行い、仕事で得た知見

06

法人事業部の鈴木麗加さん。クライアントの決算申告書を作成し、その内容を確認



もっとスキルアップしてお客様の役に立ちたい

平成30年4月に入社した鈴木麗加さんにも話を伺った。「大学では実は経済学ではなく(笑)、教育や心理学を学んできました。企業の地域貢献にも興味があつて就活ではいろんな業界を見て回つたのですが、なかなかココ!という会社が見つからなくて...。では、三部さんの何が決め

手に?」三部所長との面談の中で聞いた、全体最適という言葉です。これが自分の中でとつとも腑に落ちて決め手となった感じがします」と学生時代を振り返る。

現在は医療系企業の経営支援チームメンバーとして、クライアントの決算の申告書の作成などを中心に業務を行う鈴木さん。実際に経営に携わる仕事をしてみると、クライアントが活性化することで商品が流通し、病院などの現場で医療・サービスが提供され、最終的に適正な税金が申告されて、納税されれば国のためにもなるという流れを、実感としてつかめるのが興味深いと語る。

「弊社の掲げる、全体最適という考えが、まさに当てはまっているんだなと感じています。今は仕事のかたわらで経営コンサルタン

トの資格取得を目指して勉強中です。医療系の基本的な知識も身に付けてスキルアップを目指しています。クライアントさんは知恵を絞ってお客様のためにサービスを提供してらっしゃるわけですから、私たちも日々勉強です」と意欲満々の23歳だ。

国際業務の仕事から新しいネットワークも誕生

三部会計事務所では、地域のニーズに応えるかたちで「国際税務」の整備を進めている。本宮市出身の遠藤剛さんは、プロジェクトメンバーの仲間とその調整に当

たっているところだ。

「国際税務とは、クライアントが海外進出するときに輸出入に関する税額の差などのメリット・デメリットを見極めて調整する業務です。首都圏などと比べると地方は国際税務の扱いはあまり浸透していませんが、ここなら新しいことに挑戦し、形にできる社風があります」。

同じくメンバーのグエンティヴェットフォンさんは、ベトナムから税務会計を習得するために日本にやってきた。日本語も堪能で適材適所の配置といえる。今後の抱負を聞いてみると、「国際税

自分をもっと伸ばしたいアグレッシブな人、求ム!

「就職先として会計事務所を考えた場合、ここでしかできない業務が結構あります。それと社風。上下関係がとてつもなくフラットでありながら、馴れ合いにならない距離感があるところも気に入っています」と法人事業部の小椋山電哉さん。20年以上のキャリアを持つベテラン社員だ。仕事の秘訣を聞くと「謙虚さでしょうか」とシンプルな答えが返ってきた。

今回取材した方々に「どんな人にエントリーしてほしい?」という質問をしたところ、面白いことにすべて同じ答えが返ってきた。「自分がやるうと思つたことは必ずできる会社だから、アグレッシブな方がいい。自分の能力を活かして地域に貢献したいという人にとっては、ここは最高の環境になるはずだ。——会計というよりむしろ、快活と呼ぶに相応しいネットワークの軽いメンバーが三部会計事務所には集っている。」



ベトナムセミナー & 交流会

本社の近くにあるコワーキングスペースを利用して開催された「ベトナムセミナー & 交流会」の様子



コワーキングスペースの運営

三部会計グループが運営を行うコワーキングスペース「oo-ba koriyama」には起業家たちが集う



ファミリー感謝デーの開催

社員の家族も参加し、親睦を深める「ファミリー感謝デー」は恒例イベントだ